

<<東北魂>>を鼓舞する
電子新聞

発行所 株式会社遊無有

〒 207-0015
東京都東大和市中央 1-539-15
<http://tohoku-saiko.jp/>
e-mail:y.s.yumuyu@ozzio.jp

東北再興

Re-C reate , TOHOKU!

2 0 2 6 年（ 令 和 8 年 ） 4 月 16 日 木 曜 日

無料

第167号

毎月発行

発行 2026 年（令和 8 年）4 月 16 日 木曜日

【当新聞発行責任者 兼編集長兼記者紹介】

【砂越 豊】

宮城県生まれ。72 歳の新人映像作家兼プロデューサー兼作家。趣味は古代史・縄文文化研究。現在、埋もれた歴史を掘り起こす歴史書籍の執筆開始。また、企業価値増大と IPO サポートを専門とする会社を今年 4 月に起業。電子新聞『東北再興』の発行責任者兼編集者兼記者でもある。

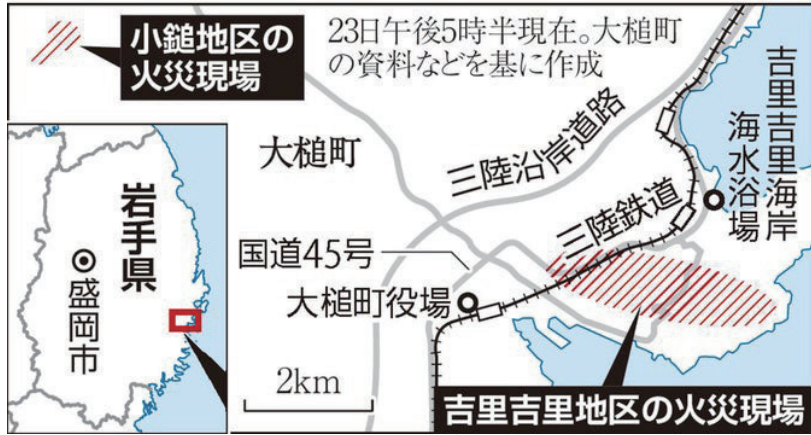


新聞発行大幅遅延に関する謝罪

当新聞編集部門の不手際により読者の方々に大変なご迷惑とご心配をおかけいたしました
あらためてここに謹んでお詫び申し上げます

岩手・大槌町の山火事収束の気配なし 東日本大震災の復興いまだ完了しない状況下で地震と熊被害にも怯える日々

大槌町の山林火災現場 推定焼失エリア



大槌町火災現場地図・・・読賣新聞オンラインより

岩手・大槌町の山火事は収束の気配なし

このところ毎日のように報道されている岩手・大槌町の山林火災は、今月二十七日で六日目を迎えたが、依然として鎮圧のめどはたつておらず、焼失面積は拡大の一途、避難指示の

対象も拡大している。現場では、住宅地に向かつて強い風が吹き、西側の山からは激しく白煙が立ち上っている。この地区の北と西側の山林に火の手があがっていることから、住宅地を守るべく部隊を増強し、消火活動が行われている。

大槌町の小釜地区と吉里吉里地区周辺で相次いで発生した山林火災では、県によれば、これまでに千六百ヘクタール以上が焼失したという。

避難指示対象は二十六日午後段階で、小釜地区の周辺で拡大し、三千二百五十七人にのぼっている。これは実に町民の三割にあたる。

また、避難生活の長期化が懸念される中、介護や福祉の専門職チームが現地入りし、活動を本格化させていて、二十七日は、約千五百人の体制で消火活動が行われ、夜を徹しての活動が続いている。

東日本大震災復興途上での大規模山火事

大槌町を含む三陸地区では、先月十一日で東日本大震災満十五年を迎えたばかりである。

表向きは復興は完了したという声もあるが、けつしてそうではないだろう。

特に、地域住民の精神的な復興、地域社会の復興はまだまだ途上であろう。

そこにこの大規模な山火事が発生したのだ。やるせない思いに駆られていることだろう。

一刻も早く鎮火して欲しいと願う。

地震も続いている

先月の二十日に発生した最大震度五強の三陸沖地震、そしてその後も続く余震は



住宅街に迫る山林火災の火の手=4月24日午後7時5分ごろ、岩手県大槌町吉里吉里地区（佐藤将史撮影）・・・河北新報オンラインより

大槌にも及んでいる。

岩手県久慈市では最大八十センチメートルの津波まで発生した。大槌町は海の町でもある。久慈市も比較的近いので、東日本大震災の津波の記憶を呼び戻したことだろう。

二十七日には、北海道で震度五強の大地震が発生し、大槌も揺れただろう。

復興途上の大槌に、山火事、頻発する地震が襲っているのである。

さぞや、さまざまな不安に襲われ、落ち着かない毎日を過ごしていることと思う。心から一刻も早い鎮火、

地震消失を祈る。

クマが山から下りてくるといいうわさ

災難はこれらだけではないようだ。

全国でクマが住宅街に出現している。クマが生息している地域ではいつ出現するかとビクビクしている。

大槌では昨年十一月に狩猟中の男性がクマに襲われ、重傷を負った事件があった。

そうしたこともあり、この山火事で山を追われたクマが住宅地に下りてくるのではないかとこのうわさまで出たと聞く。

極限状態か

いつ終わるとも知れない山火事、大震災からの復興未完了、続いている余震、クマ被害の予感と、大槌町はいま四重苦に襲われているといえる。

じわじわと心を痛めつけてくる状況が一刻も早く解決していくよう祈るとともに、国を挙げての消化体制と支援体制を切に要望したいと思う。

クマの生息数・食生活変化に対応が追いついていない！ 山でクマを見かけず人家近くにたくさん生息する異常状況 岩手県西和賀の猟師が見たのはその地域だけの例外なのか？



視聴者提供
仙台中心部に出没したクマ映像・・・
TBC東北放送（4/21）より

傾けよう。

岩手ではついに冬眠明けクマによる死者発生
今月二十一日、岩手県紫波町の山林で、行方不明者の男性署員がクマに襲われ重傷を負った。さらに署員が襲われた地点から数十メートル離れた場所では、身元不明の女性の遺体が見つかった。遺体は損傷が激しく、署はクマに襲われた可能性があるとみた。
男性署員が襲われたすぐ後、同行のハンターが成獣とみられるクマを駆除した

全国で冬眠明けのクマ目撃情報あふれる

それも人家に近い場所での目撃が多いことに留意しなければならぬ。
宮城・仙台市の市街地にもクマ出現
宮城県仙台市といえは、東北の政治・経済の中心的役割を担う大都市である。したがって、余程の山間部を除き、野生のクマとは縁がないように思われる。
ましてや、市街地となればクマが出現する余地など微塵もないと思ってきた。
しかし、その市街地に「クマが出た」のである。
四月十九日に仙台市の中心部でクマは駆除されたが、クマが最初に目撃されたのは仙台市青葉区国見一丁目で、航空写真で見ると、人家密集地である。なぜそこにクマが出現したのか？
専門家は川を伝って来たというが、ではこれまでこうした事態が発生したことはあったであろうか？
何か、これまでのクマに関する常識をひっくり返すような「大変化」が起きているのではないのか？
しかし、そのことを指摘する専門家は、実践でクマと対峙する猟師の言うことに耳を傾けよう。

岩手・西和賀の猟師の最近のクマの見立て

岩手県西和賀町は、ツキノワグマ超高密度エリアで、そこに住む。義眼の老ハンター。一度クマに襲われて片目が義眼となったハンターの話はとても貴重だ。そのハンターによれば、「里の栗や柿の木の周りに何頭ものクマが群れているのに、山ん中にはぜんぜんいない、異常だな」ということである。

人里の餌がある場所に集中するクマ

昨年、東北地方で起きた事故のうち、衝撃的な事案がいくつもある。人家に侵入したクマに襲われ八十一歳の高齢女性が死亡した事故（北上市和賀町）、露天風呂の清掃中に従業員の中年男性がクマに殺され山中に引きずられていった事故（同上）、民家の周辺で男女四人がクマの襲撃を受け一人が亡くなった事故（秋田県東成瀬村）の三件だ。これらが起きた現場は、いずれも西和賀町の隣町だ。
こうした事故を見聞きすると、周辺の山々には、ツキノワグマがうようよしている様子をイメージするが、その想像は事実と著しく乖離しているという。

昨秋、メディアが連日のようにクマ出没を伝え、恐怖を煽る「クマの狂想曲」とでも呼ぶべき現象が起きた渦中、ハンターは十回以上山に入ったが、一度もクマを見かけなかったという。「ぜんぜん見つけられなかった。いないのさ。山ん中には。ぜんぜん」
ところが里の栗や柿の木の下に何頭ものクマが群れていた。

「異常だな。ここ二、三年は。クマは縄張り意識が強いから、普通、山ん中に適度に散らばってるものなんだ。そもそもクマは臆病ものだから、人里になんて降りてこない。ただ、腹が減ってたから別よ。食べるものがないから、里の餌がある場所に集中してしまう。ここ二、三年で急にクマが増えたっていう人もいるけど、我々はそうは思っていない。奥山にはいないんだから。断わっておきますけど、西和賀では、ですよ。他の地域はわかりません」という。

ブナ・ナラ凶作は「温暖化の影響」という持論

今年もすでに各地でクマ出没のニュースが伝えられるが、ハンターに今年のクマの出没予想を問うと、間髪入れずに答えが返ってきた。「同じじゃねえかな」。

たとえ山に餌があったとしても里でありつける食べ物、一度でも覚えてしまったクマは必ず戻ってくるという。クマの山のこちそうであるブナやナラなどの堅果類の出来も急激に好転することはないという。

「このことは、まだ、どんな学者さんたちもほとんど言っていないんじゃないかな。餌不足は温暖化の影響だと思うよ。ブナの花は通常、四月の下旬ころに咲くんだけど、ここ数年は二、三週間早い。ブナは標高四百、五百メートルのところになるから、咲くのが早いと夜霜が降りて、凍傷になっちゃうんだ」。

西和賀町の山々は日中、二十度近くまで気温が上がっても、夜は氷点下まで急降下することも珍しくない。「ブナはただでさえ弱いので、二、三年に一度くらいしかならない。でも、ここ五、六年、ずっとダメだから。去年はナラの木もダメだった」

自分の足と目で得た情報だけに説得力があった。クマの異常行動が温暖化に起因しているとしたら、その傾向は容易に元には戻らないどころか、より加速する可能性さえある。

今後の絶望的な状況

ブナやナラの凶作は今後も続き、クマは人里のエサに執着する構造が固定化していくハンターの見立て。非常に恐ろしい構図だ。

(株)遊無有が企画・制作した映像DVDを新春特別価格(55%OFF)で提供！

東北の歴史シリーズ 鬼がつくった日本刀



価格：1500 円 / 本（税込・送料無料）
商品は申込返信メールに記載の振込先にて入金確認次第発送いたします

日本刀のルーツは古代東北にあり！数多くの資料を丹念に読み込み、多くの名刀を展示する宮城県北部の中鉢美術館の協力を得て、また宮城県北部の数々の遺構を尋ね歩いて制作した日本刀の定説をくつがえす歴史ドキュメンタリー映像。古代の奥州刀鍛冶は強制移住を強いられ全国に送られそこで作刀した。そうして日本刀が全国で作られたのだ。しかし彼らは「鬼」とさげすまれた。そうした境遇にもかかわらず、数々の名刀をつくり上げていった。その埋もれた歴史の発掘ドキュメンタリー（約 53 分）

お申込方法：購入者氏名・お届け先住所・電話番号・メールアドレス・購入希望の本数を明記して
右記メールアドレス宛お申込ください（送料無料） [mail : y.s.yumuyu@ozzio.jp](mailto:y.s.yumuyu@ozzio.jp)

東北 TOPICS

当新聞が独自に選んでコメントするスモールニュースコーナー



YOUTUBE—menkoichannelより

今年は大船渡のホヤが豊漁 去年は不作で心配だったが、今年 はたらふく食べられるか？

養殖ホヤの産地として知られる岩手県大船渡市で、ホヤの出荷が本格化。今年は大きめのサイズのホヤが多いという。

三月十八日から出荷開始。二十日の地震の影響で大船渡では二十センチの津波を観測したが、ホヤの養殖施設などに被害はなかった。ホヤは四年ほどかけて養殖されたもので、今年は大きめサイズが多いようだ。価格はキロ当たり百八十円ほどと、昨年より二十円から三十円高い値段で取引されている。

養殖組合によれば、「今年の出来は近年にないくらい良い」とのこと。

大船渡に限らず、三陸ホヤが豊漁であって欲しい。

余震が心配だったがー安心 北海道・三陸沖後発地震注意情 報は解除されたが・・・

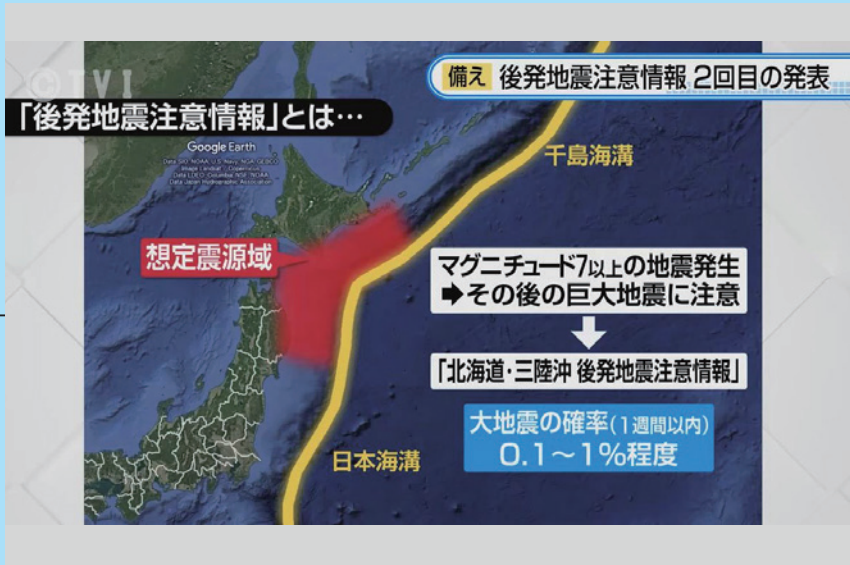
四月二十七日朝、北海道・十勝地方南部を震源とする最大震度五強の地震が発生した。

この地震は、北海道・三陸沖に出されていた「後発地震注意情報」の対象ではないということだった。

他方、四月二十日に発生した三陸沖を震源とするマグニチュード7.7の地震では、東北各地で最大震度五強の揺れと数十センチの津波を観測した。その後も余震が続いた。

だが、その「後発地震注意情報」による特別な備えの呼びかけは一週間後の二十七日午後五時で終了した。

何だかよく分からない解除だったが、専門家にしか分からないのであろう。



北海道・三陸沖後発地震注意情報・・・テレビ岩手より

米価下落したのに報道なし 上がった時だけ大騒ぎのマスメ ディア、最後まで報道してね

今年二月以降、国内店頭米価格は下落を続けている。農林水産省の公表するPO S（全国約千店）データでは精米5kg当たり税込の平均価格が今年三月九、十五日に三千九百八十円と備蓄米が出回った昨年八月二十五、三十一日以来、約半年ぶりに三千円台になった。

また民間在庫は今年二月末に三百万玄米トン（前年差十九万五千トン）へ積み上がり、四年ぶりの高水準となった。下落兆候？米価格下落が続いたら、東北米農家さんは大丈夫だろうか？

しかし、あれだけ大騒ぎのマスメディア報道はめっきり減った。まことに不思議なマスメディアである。



流通経済研究所の主席研究員による米価推移予想・・・TBS NEWS DIGより

漬物フリーズドライ発売 新潟で製品開発したが、おしんこ 大国・東北はやらないの？

新潟県漬物工業協同組合青年部が常温で持ち運べるフリーズドライの漬物を開発した。面白い！ポケットで携帯できる漬物なので、名付けて「PKTK（ポケつけ）」とした。

ワインや日本酒に合う商品として販路開拓を進めるとのこと。

漬物を凍らせて乾燥させた。常温保存が可能になり、一般の漬物より塩分やにおいも控えめに仕上がったとのこと。口に含むとカリッとした食感に続いて漬物の風味が広がる不思議な味が楽しめるようだ。

たくあんや奈良漬など六種類、500円で販売。

漬物大国の東北はやらないのかな？



ポケつけ・・・TBS NEWS DIGより

2026 年（令和 8 年）4 月 16 日（木曜日）

第 167 号

http://tohoku-saiko.jp/

伝える続けることの重要性

「仙台防災未来フォーラム」に足を運んで

年に一回の防災を考えるフォーラム

去る三月二十四日、仙台防災未来フォーラムが開催された。二〇一六年に初開催されて以来、今年で二年目、震災のあった三月二日の前後の週末に毎年開催されている。震災の経験や教訓を未来の防災につなげることが目的のイベントである。

二二回目の今回は、「東日本大震災から一五年 つなぐ想い、つむぐ未来」がテーマで、今年も仙台国際センターを会場に、地域の様々な団体や企業、高校や大学など一七六団体が参加して発表、ワークショップ、ステーション、展示など様々な形で防災について考えるプログラムが組まれていた。

このフォーラムでいいなと思うのは、子ども向けのステーションなどがあることで、家族みんなで来て、楽しみながら防災について学べる仕掛けがある。震災について知らない世代も増えているので、次の世代に伝えていくという意味でも年に一回のこの場はとても貴重だと思う。

食べて応援するイベントも

この週末は、勾当台公園で、「食べて応援しよう！in 仙台二〇二六」も開催されていた。このイベントも震災後に始まった、東日本大震災の被災地、岩手、宮城、福島の海の幸、山の幸が一堂に会するイベントである。こちらにも二〇一七年に初開催されて以来、毎年この時期に開催されている。今年も三県の農林漁協者や食品事業者など四八の出店があったそうである。会場内を見て回つてみるとつくづく、東北には美味しいものがたくさんあることを実感する。

早速、岩手のいわて蔵ビールと一関ミートのスペアリブ

執筆者紹介

大友浩平

（おおともこうへい）

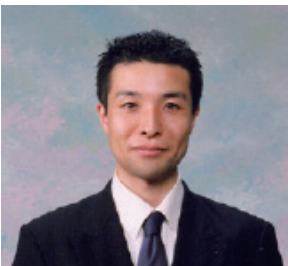
奥州仙臺の住人。普段は出版社に勤務。東北の人と自然と文化が大好き。趣味は自転車と歌と旅。

「東北ブログ」

http://blog.livedoor.jp/anagma5/

Face book

https://www.facebook.com/kouhei.ootomo



公衆衛生学の手法の応用の可能性

今回の仙台防災未来フォーラムのセッションの中では東北大学災害科学国際研究所主催の東日本大震災メモリアルシンポジウム「東日本大震災一五年…いま語るべきこと、そしてこれから」での東北大学災害科学国際研究所長の栗山進二氏の基調講演「命を守る防災〜今、できることがある！〜」で、特に次のような話が印象に残った。

- ・ 伝承していくことの意味は、①亡くなった人への追悼、②支援への感謝、③次の災害への備え。
- ・ 南海トラフ地震の想定死者数、二〇一四年三・三万人を二〇年で八割減らすことを求めたが、二〇二五年で二九・八万人と、八パーセントしか減らせてない。これを放つておいていいのか。巨大災害の後の備えができていない。住民への対応を促す取り組みが圧倒的に足りない。
- ・ 公衆衛生学では、減塩、禁煙を言い続けて脳血管疾患による死を大きく減らせた。このヘルスコミュニケーションを防災コミュニケーションに活かせないか。
- ・ 何度空振りしても備え続ける方が結果的にははるかに

震災伝承にまつわる現状と課題

また、河北新報社とみやぎ防災・減災円卓会議の共催の「震災伝承のいまを知り、あすを考える」も興味深かった。伝承活動に取り組む3つの団体による報告があった。

- 三・一メモリアルネットワーク専務理事の中川政治氏からは、
- ・ 岩手、宮城、福島三県の震災伝承は現在転換期。
- ・ 伝承施設の来訪者は二〇二三年をピークに減少し、活動を担う団体の九六パーセント、施設運営団体の六九パーセントが継続性に不安を抱えている。
- ・ 来訪者が一〇年間で九八

パーセント減った例や、語り部が逝去した例、民間伝承施設が閉館した例もある。資金不足も課題。

- ・ 震災伝承の意義はむしろ高まっている。南海トラフ、日本海溝・千島海溝の両地震想定では、津波の死者は早期避難で、ともに約一四万人減らせる。私たちの追跡調査では、子どもたちは語り部から聞いた話を家族に話し、子どもたち自身の意識も変化していた。
- ・ 今後は震災伝承への支援が必要。地域で活動する団体への年間補助は、阪神大震災で被災した兵庫県の四二〇〇万円に対し、宮城県は九〇〇万円、岩手、福島両県はない。
- ・ 災害基本法は二〇一二年の改定時、住民の責務として「教訓の伝承」を盛り込んでいる。災害伝承が当たり前の社会にするため、①財源と人材による基盤整備、②被災地同士や世代間などさまざまな連携・協働、③社会全体の理解醸成の三つがあつて、伝承の未来が開ける。
- 三・一メモリアルネットワーク推進機構業務執行理事の原田吉信氏からは、
- ・ 震災では犠牲者の約9割が津波による溺死だったが、昨年六月に首都圏と東北で行ったインターネット調査では、それを正確に答えられた人は東北ですら七七パ

ーセント、首都圏では六八パーセントしかいなかった。あれほど津波の恐ろしさが伝えられたのに、記憶の風化が少しずつ進んでいる。

- ・ 調査では、任意で抽出した40カ所の震災伝承施設の訪問経験も複数回答で尋ねたが、東北の回答者の三パーセント以上が「行ったことがある」施設はわずか九施設、首都圏の回答者では皆無だった。訪問経験が全くない人が首都圏で六八パーセント、東北でも六五パーセントにも達した。
- ・ 訪問経験者の訪問の動機は、首都圏では「震災学習」の四五パーセントがトップ。東北では「近くに来たのでついでに訪問」が三五パーセントがトップで、次いで「震災学習」が二九パーセント。
- ・ 施設への不満については「アクセスの悪さ」「展示案内の説明の少なさ」「事前情報の少なさ」が多かった。震災伝承施設は各地域の被災状況を表す貴重な場所、二つとして同じものはない。だからこそ、多くの人に訪れてもらいたい。
- ・ 施設に関係する方々には、積極的な情報を発信してもらいたい。どんな小さなイベントでもアクションでも、アップデットした情報を発信していけば、来訪者が増える。
- ・ 震災では犠牲者の約9割が津波による溺死だったが、昨年六月に首都圏と東北で行ったインターネット調査では、それを正確に答えられた人は東北ですら七七パ

発足の仙台市職員らの自主研修グループ。半年後の震災をきっかけに職員の体験を記録し、伝承する活動を続けてきた。

- ・ 市役所内では「伝承の空白」が広がっている。二〇二四年度に四つの区役所若手職員を対象に出前講座を行った際のアンケートで、「この一年に震災の話を見聞きしたことが何回あったか」を尋ねたところ、ある区役所では「〇から一回」が七六パーセントに上った。
- ・ 市職員のうち震災後の入庁者は五七・二パーセントになり、「貴重な経験が伝わらないまま消えてしまう」と危機感を抱くOBもいる。
- ・ 震災時には阪神大震災を経験した神戸市や新潟県中越地震を経験した新潟市が職員を派遣してくれた。災害現場では「何をすればいいですか？」と言われることが最も困るが、派遣されてきた職員は避難所運営を丸ごとやつてくれた。
- ・ 震災から一五年。私たちが同じように動けるか自信はないが、経験者がいるので出し惜しみせずに、どんな体験を伝えていけば。そのためには、聞いて、話して、交流する「場」、何度でも参加したくなる「内容」、分かりやすい「伝え方」が鍵となる。
- ・ 震災遺構という建物を眺めるだけではなく、人から人に伝えてこそ心に響く。こうした活動がいつか「災害文化」と呼ばれるほど地域

「伝える」と「伝わる」は違う

この後行われたディスカッションでは、三・一伝承ロード推進機構代表理事でもある、東北大学副学長の今村文彦氏が、「定期的に震災伝承を行う場として『学校』が重要になる」とした上で、地域の先人が被害を後世に伝えるため取り組んだ石碑の設置などに加えて、「デジタル技術を活用したり、文化芸術などを通じて心に響かせたりする工夫も必要」と指摘した。

三・一メモリアルネットワークワーク代表理事の武田真一氏は、「もう一度地震が来るとしても伝わっていないことは大いにある。例えば、私はこの『東北復興』の三月号でもそうだが、震災の日には毎年必ず、亡くなった弟のことを文章にしてSNSやブログで発信している。それでも毎年、「そんなことがあったこと、今まで知りませんでした」という反応が一定数ある。それはつまり、その人たちはそれまでその話は伝わっていなかったということである。伝えたとおもっても伝わっていない人がいる、だからこそ伝え続けなければいけないのである。」

仙台防災未来フォーラム2026

3.14

東日本大震災から15年 つなぐ想い、つむぐ未来

これら一連のセッションを聴講して、伝え続けること、そして次に備えることの大事さを、改めて認識した次第である。震災から一五年、記憶の風化も言われ始めた中で、このフォーラムの場は、あの時の思いに立ち返らせてくれる。それもあって、毎年欠かさず来ている。来年もまた足を運びたいと思う。

「伝える」と「伝わる」とでは、全く違う。伝えたと思っても伝わっていないことは大いにある。伝えたとおもっても伝わっていない人がいる、だからこそ伝え続けなければいけないのである。」

仙台防災未来フォーラム2026

3.14

東日本大震災から15年 つなぐ想い、つむぐ未来

これら一連のセッションを聴講して、伝え続けること、そして次に備えることの大事さを、改めて認識した次第である。震災から一五年、記憶の風化も言われ始めた中で、このフォーラムの場は、あの時の思いに立ち返らせてくれる。それもあって、毎年欠かさず来ている。来年もまた足を運びたいと思う。

「伝える」と「伝わる」とでは、全く違う。伝えたと思っても伝わっていないことは大いにある。伝えたとおもっても伝わっていない人がいる、だからこそ伝え続けなければいけないのである。」

【東北被災地の中小企業生き残りと活性化】 シリーズ②

人手不足なのに外国人材が東北から流出していく

技能実習が終わると他地域へ移動する動きは止まらない？

東北中小企業の外国人雇用について

東北の企業にとって、特に東北の中小企業にとっては、人材不足問題はのつびきならない問題である。

ただでさえ人口流出が激しい東北、特に大震災の被災地ではまさに企業存続にのつての死活問題である。

特に、農業や水産業などの零細一次産業にとつては、日本人の事業継承者がまれにしか存在しない現状では、外国人雇用問題は企業が生き延びるのに必須なテーマである。

そして、今回は、外国人雇用のなかで最も大きな問題である外国人技能研修問題を取り上げてみたい。

しかし、東北の技能実習生問題を考える前に、まずは、技能実習制度全体の概要をおさらいしておこう。

国内人材不足を補完する技能実習制度

近年、国中で叫ばれ続けてきた人材不足であるが、さまざまな分野で日本人が不足しているの、そこを何とか補完しようというこ

とで、開発途上国の外国人を呼び寄せて雇用しようというこで導入されたのが技能実習制度である。

この制度は、一九九三年に導入され、「技能実習の在留資格で日本に在留する外国人が報酬を伴う実習を行う制度である。

建前としては、最長五年程度の就労を通じて技能を習得させ、帰国後に母国の発展に役立ててもらうことを目的とした制度であるが、国内の人材不足対策であることは疑問の余地がない。

分野は介護、建設、農業、製造業など多岐にわたる。

在留期間は原則一〜三年、要件を満たせば最長五年程度まで延長可能である。

しかしながら、実態としては「安価な労働力確保」となっていて、長時間労働賃金未払い、パワハラなど人権侵害事例もあり、日本語力不足による安全面のリスクや孤立問題もあり、失踪や不法残留につながるケースもありと社会問題化してきた。

そこで、こうした状況を踏まえ、二〇二四年六月、「技能実習制度を発展的に解消し、新たな『育成就労制度』を創設する」との改正法が公布された。

新制度では、人材育成と人材確保を明確な目的とし、転籍要件の緩和や人権保護の強化が図られる方向というこである。

当然ながら、人口流出が他地域に比べて激しい東北もこの技能実習制度を導入し、活用してきた。

しかし、この制度が東北ではうまく効果を出せなかったのではないかという疑問がある。

それどころか、最初は外国人材が東北で技能研修を行うが、その研修を終えた途端に、どんどん大都市部に流出しているのではないかという問題だ。

要するに、東北には定着せず、技能研修生の入口としてのみ東北を活用しただけというさびしい結果ではなかったか？

東北から外国人技能実習終了生が他へ流出

左の表を見て欲しい。こ

れは、二〇二六年四月十八日に、日本経済新聞が出入国在留管理庁のデータを基に、特定技能への移行時の流出率を都道府県ごとに算出して発表したものだ。簡単にいえば、都道府県ごとの流出率ランキングである。そこには東北にとつて非常に厳しいデータが記載されている。

四十七都道府県の流出率ワースト十一のなかに、東北六県がすべて入つてしまつているのだ。

二〇二七年度導入の新制度「育成就労」でもっと流出する？

二〇二七年度に、技能実習は新制度「育成就労」になり、実習途中でも転職可能になる。

現在、実習途中では転職できないことになつているものが、研修終了前にもっと自由に転職し、企業間を行き来できるようになるというこである。

というこは、地方の魅力を高めないとな人手不足が、段と深刻化するのである。

先ほど見た、現在の制度内での東北からの流出がもっと加速するということでもある。

大都市圏には賃金では勝てない

外国人技能研修生は基本的に、日本のどこにも、当然、東北のどこにも地縁・血縁関係はないのだから、働くのであれば、より高賃金のところへ流れていくのはごく自然である。

東北は、先ほどの表の一番右側の欄にある最低賃金でもワースト上位である。

したがって、大都市圏には賃金では勝てない。

その結果、外国人研修生はどんどん流出していくのである。

他に有効な引き留め策がない以上、東北の中小企業は指をくわえて、流出していく様子を見ていることしかできない。それでいいのだろうか？

これまで、外国人技能研修生に頼つてきた東北農業や水産業などはどうなるのだらうか？他にも研修生に頼つてきた産業があると思

うが、そこもどうなるのだろうか？

農業も水産業も他の産業も、基本的には零細企業が多いので、人材獲得が出来なければ廃業、倒産しかないのだらう。

前々号で見たように、ただでさえ、企業存続に厳しい環境が訪れているというのに、人材不足まで加わつたらどうしようもなくなるのではないか？

原点に立ち返って考え直すのではない

このように、外国人研修生問題だけを考えると先

真つ暗であるが、そもそも、こうしたことになつた原因を考えてみれば、解決策も見つかるかもしれない。

すなわち、高い賃金が払えない事業構造そのものに問題があるのではないか？

だとしたら、高い賃金を払える事業に大転換することしかない。そこにはいく

つもの方法があるはずだ。

したがって、これまでの発想を一旦すべて捨てて原点から考えてみよう。

特定技能移行時の他地域への流出率			
	都道府県	流出率	最低賃金
1	青森	60.2%	1029円
2	島根	55.6	1033
3	岩手	55.1	1031
4	鳥取	54.2	1030
5	秋田	53.4	1031
6	佐賀	52.9	1030
7	福島	51.4	1033
8	宮城	50.1	1038
9	山口	48.9	1043
10	宮崎	47.8	1023
11	山形	47.5	1032
12	大分	47.2	1035
13	奈良	46.5	1051
14	福井	45.6	1053
15	新潟	45.5	1050
16	沖縄	45.3	1023
17	長崎	44.1	1031
18	鹿児島	41.9	1026
19	栃木	41.9	1068
20	徳島	40.3	1046
21	富山	39.1	1062
22	岡山	38.9	1047
23	岐阜	37.8	1065
24	山梨	37.6	1052
25	石川	37.1	1054
26	和歌山	37.0	1045
27	愛媛	36.4	1033
28	熊本	35.1	1034
29	北海道	35.1	1075
30	滋賀	34.5	1080
31	三重	34.3	1087
32	京都	33.0	1122
	全国	32.8	1121
33	静岡	32.8	1097
34	福岡	32.8	1057
35	広島	32.2	1085
36	香川	32.2	1036
37	高知	30.8	1023
38	兵庫	28.8	1116
39	群馬	28.6	1063
40	長野	28.3	1061
41	茨城	26.7	1074
42	千葉	25.7	1140
43	愛知	25.7	1140
44	埼玉	25.0	1141
45	東京	22.7	1226
46	大阪	21.8	1177
47	神奈川	20.6	1225

(注) 出入国在留管理庁のデータを日経が分析。最低賃金は2025年度の時間額

東北スポーツニュース

東北のチーム・出身者や東北拠点の選手の活躍

【パ・リーグ順位表】

順位	チーム名	試合	勝敗数	引分	勝率	差
1	オリックス	24	15	9	0.625	-
2	ソフトバンク	24	13	11	0.542	2.0
3	楽天	24	12	11	0.522	0.5
4	西武	25	11	13	0.458	1.5
5	日本ハム	25	11	14	0.440	0.5
6	ロッテ	24	10	14	0.417	0.5

(2026/4/25 18：25 時点)

東北楽天

ここまで好調 接戦の3位 リーグ優勝も狙える位置

東北楽天ゴールデンイーグルスが今シーズン、好調なすべり出しを見せていて、東北ファンを喜ばせている。昨年はBクラスで最下位に終わったが、四月二十五日終了時点では、接戦の3位につけており、このまま行けばリーグ優勝も見えるという好位置にいる。昨年からの違いといえば、選手の積極的補強が挙げられるだろう。特に先発として日本球界復帰の前田健太投手獲得では盛り上がり、中継ぎ陣も序盤からフル回転中だ。打撃陣も、浅村選手はじめ好調で、競り合いの試合で粘り勝ちしているのが勝ち試合を増やしている原因という。ガンバレ楽天！

投手成績

(2026/4/25)

防御率 0.38
先発 4 試合登板 2 勝
24 イニング
打者 92 人 被安打 12
被本塁打 0
奪三振 25
四球 6 死球 1
失点 2 自責点 1

打者成績

(2026/4/25)

打率 .237
23 安打 本塁打 5
二塁打 4 打点 11
三振 31 四球 17
死球 3 盗塁 1
出塁率 .361
OPS .433

大谷選手

投手はサイヤング賞候補 打撃分野は下降気味

今シーズンの打者としての大谷選手は少し心配だ。対戦相手は必死になってことさらに大谷選手を抑え込もうとする。なぜなら、大谷選手が打つとドジャースがより活気づき手が付けられなくなるからだ。だから全精力を挙げて、打たせない意地悪投球をしてくる。連続MVPだから仕方ないかもしれない。他方、二刀流再開の今年の大谷投手はすばらしい。まず、防御率0.38はすぎず。このまま維持できると思えないが、両リーグにおいて記者投票で選出される年間最優秀投手に贈られるサイヤング賞の候補にすでに挙げられている。とても楽しみだ。

明治安田J2・J3百年構想リーグ

AST-B				EAST-A			
チーム	勝点	得失点		チーム	勝点	得失点	
J2 いわきFC	26	+ 8		1 J2 ベガルタ仙台	29	+16	
J3 FC岐阜	21	+ 5		2 J2 湘南ベルマーレ	24	+11	
J2 藤枝MYFC	21	+ 2		3 J2 ブラウブリッツ秋田	22	+ 4	
J2 ヴァンフォーレ甲府	20	+ 5		4 J2 モンテディオ山形	17	+ 1	
J2 RB大宮アルディージャ	19	+ 9		5 J3 SC相模原	15	0	
J3 松本山雅FC	18	+ 9		6 J2 横浜FC	14	+ 1	
J2 ジュビロ磐田	13	- 5		7 J3 栃木SC	13	- 2	
J2 北海道コンサドーレ札幌	13	- 6		8 J2 ヴァンラーレ八戸	12	0	
J3 福島ユナイテッド	8	-12		9 J3 ザスパ群馬	10	-15	
J3 AC長野パルセイロ	6	-15		10 J2 栃木シティ	9	-16	

2026 年 4 月 19 日終了時の J2・J3 EAST-A&B 順位表

ベガルタ仙台

シーズンすべり出し好調 現在EAST-AリーグTOP

昨年末、サッカーJ2・「ベガルタ仙台」はJ1昇格プレーオフ進出をかけ、ホームでいわきFCとのシーズン最終戦に臨んだが敗れ、プレーオフ圏内から転落し、七位となり、J1昇格への道が開きされた。二〇二六年シーズンはJリーグの大変革で、リーグ戦が八月の開幕から翌年六月までの秋春制に移行。それに伴い二月からはJ2・J3が東西南北十チームずつに分かれ戦う百年構想リーグが開催されている。「ベガルタ仙台」は四月十九日終了時点で「EAST-A」トップで、福島の「いわきFC」の「EAST-B」トップと並立している。両チームの奮闘を祈る。

釜石シーウェイブス

後半不調で7位・入替戦決定 新規加入選手投入必要

ラグビーリーグワン D2 の日本製鉄釜石シーウェイブスは二十五日、岩手県でグリーンロケッツ東葛と対戦したが、24対37で敗れた。釜石はこれで六連敗。これで結果として今シーズン七位が確定。今シーズンから新たなヘッドコーチも招へいし、前半戦は見違えるようなチームになってD2上位も狙えると期待していたが、残念な結果となった。再び下部リーグとの入替戦が待つことになる。それにしても残念なのは、せっかく大学ラグビーで活躍した選手複数名を獲得したのに試合に投入しないことだが、いったいどんな理由があるのだろうか？

	日程	KO	対戦カード		会場
D1/D2 入替戦 第1戦	5月22日or23日or24日 (金or土or日)	未定	D2リーグ戦 1位	vs D1リーグ戦 12位	未定
	5月22日or23日or24日 (金or土or日)	未定	D2リーグ戦 2位	vs D1リーグ戦 11位	未定
D2/D3 入替戦 第1戦	5月23日(土)	未定	日野レッドドルフィンズ (D2リーグ戦 7位/8位)	vs D3リーグ戦 1位/2位	AGFフイー (東京)
	5月22日or23日or24日 (金or土or日)	未定	D2リーグ戦 7位/8位	vs D3リーグ戦 1位/2位	未定
D1/D2 入替戦 第2戦	5月29日or 30日or31日 (金or土or日)	未定	D1リーグ戦 12位	vs D2リーグ戦 1位	未定
	5月29日or 30日or31日 (金or土or日)	未定	D1リーグ戦 11位	vs D2リーグ戦 2位	未定
D2/D3 入替戦 第2戦	5月30日(土)	未定	マツダスカイアクティブズ広島 (D3リーグ戦 1位/2位)	vs D2リーグ戦 7位/8位	パルコムS (広島)
	5月31日(日)	未定	狭山セコムラガッツ (D3リーグ戦 1位/2位)	vs D2リーグ戦 7位/8位	AGFフイー (東京)

ラグビーリーグワン入替戦予定



大洞のヤマザクラ



大日山のエドヒガンザクラ 遠野市指定天然記念物



喜清院のシダレザクラ 遠野市指定天然記念物



爛漫



エナガ

シリーズ 遠野の自然 「遠野の清明」 遠野 1000 景より

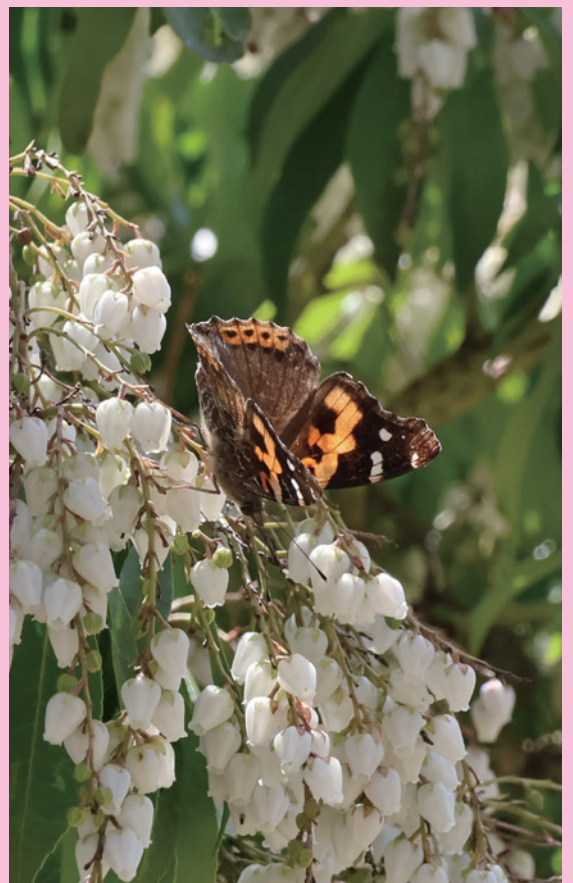
遠野にもようやく桜の季節がやってきた。
今回号でお借りした桜の写真に登場する桜はどれもこれも見事である。
桜といえはすぐに「花見」と反射的に反応する気持ちを抑え、「花見」から離れて、周囲には誰も人間がおらず、単独で凛として咲いている桜の気配を感じることが出来てとてもいい。
また、遠野市の指定天然記念物の桜は当然すばらしいが、神社の桜もいいし、ヤマザクラの風情は何ともいえず魅力的だ。
この頃は世界も日本も大変に騒々しいが、これらの桜の写真を見て、落ち着かない気持ちを何とか鎮めて欲しいものだ。



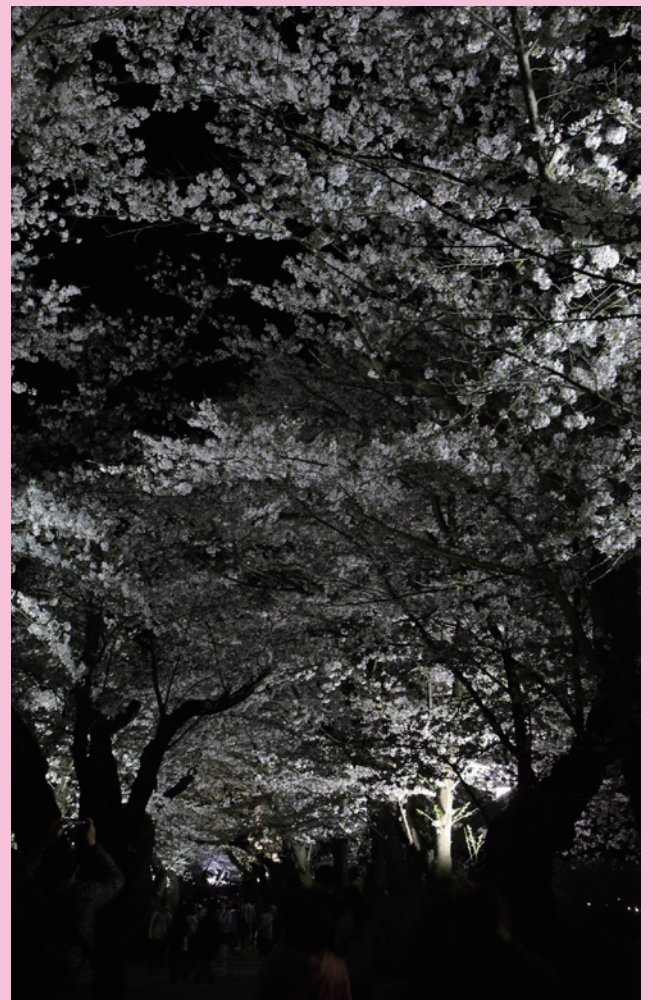
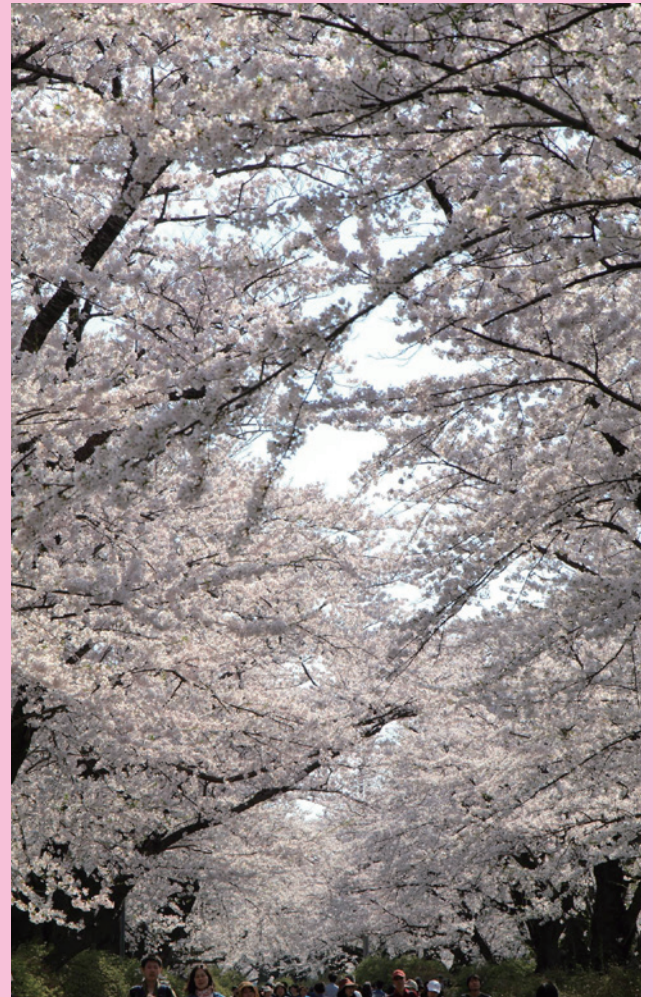
アセビとルリタテハ



桜と社



アセビにアカタテハ



写真でお伝えする **東北の風景**
『展勝地の桜（岩手）』

写真撮影 尾崎匠

